

## 韓国での研修旅行を終えて

看護学部 1年 121033 後藤 苑子

### 【はじめに】

私は2012年9月17日から9月21日まで、韓国の高麗大学校保健科学大学の教員や学生の皆様に手助けして頂きながらミソドル病院、梨女子大学、高麗大学校を見学したり、放射線治療についての講義を受けたりしました。また、食事やソウル市内の見学時には現地の学生の皆様と交流でき、楽しい時間を過ごすことができました。皆様には大変お世話になり、かけがえのない有意義な時間を過ごせたことを心より感謝しております。この報告書では書ききれないほど多くのことを体験させていただきましたが、ここでは高麗大学校での授業内容と韓国語について感じたことの2点を報告いたします。

### 【1. 高麗大学校での授業について】

授業は90分間、パソコン室にて全て英語で行われ、適宜パワーポイントや映像が用いられました。私たちは放射線学を専攻する学生の皆様と一緒に参加しました。内容は、患者の体内の深部に腫瘍があり、そこに強い放射線を当てて治療したい場合、どのように行うか順を追って説明されたものでした。結論を言うと、放射線を腫瘍部へ一方向から一気に当てると身体へのダメージが強すぎるため、当てる方向を体の前後や横からなど、3方向から3分の1に分けて当てる必要があるとのことでした。専門用語が多く、私には理解しにくい部分が多かったですが、授業後にある学生さんに解説していただきました。私は看護学部には属する学生であるため放射線学に関する内容は学んでいませんが、今後のためになる知識を吸収できたことは収穫の1つです。また、授業内で、高麗大学校の学生の皆様は英語を手段として使いこなしていることも感じ取りました。私も語学力を磨きたいと強く必要性を感じました。以下、授業の様子の写真です。



## 【2. 韓国語について】

私は前期、韓国語を受講していました。ハングル文字は日本語の“あいうえお”よりも数が多く、覚えるだけでも苦勞しました。しかし、それさえ覚えてしまえば文法に関しては日本語と似ている部分が多く、日本人にとって学びやすい言語であると私は感じています。韓国人にとっても日本語は学びやすい言語であるということや、日本語を話すことのできる韓国人はかなり多いと高麗大学の学生から聞きました。

実際に韓国に行ってみて驚いたことは、韓国人は日本人以上に年上、年下の区別をはっきりさせて人を呼ぶことです。私は現地学生のある男の子と個人的にとっても仲良くなり、その彼は日本語を流暢に話すことができるのですが、私のことを“姉さん”と呼んでいました。彼は23歳、私は27歳なので私の方が年上ですが、日本人同士ではこのような呼び方はニックネームではない限りしないので、最初こう呼ばれたときは違和感がありました。また、韓国語特有のこの“兄さん”、“姉さん”という呼び方は本当の兄弟姉妹だけでなく、仲良しの年上の人に対しての親しみが込められているようです。以下の表は、韓国語でのそれらの呼び方についてです。<sup>1</sup> 私が呼ばれていた“姉さん”は韓国語では“누나”に当たります。

	お兄さん(弟から見た)	お兄さん(妹から見た)	お姉さん(弟から見た)	お姉さん(妹から見た)
	형	오빠	누나	언니
読み方	ヒョン	オッパ	ヌナ	オンニ

また、韓国滞在期間中は街中や現地学生同士の会話などあらゆる場所で韓国語を耳にしていたためか、帰国直後には、日本語は韓国語の抑揚と似ていると感じました。それは感覚的なものだったので説明しにくいことではありますが、私にとっては、日本語と韓国語が音としても似ていると初めて体感したできごとでした。

この4泊5日間の滞在で、前期に学んでいた韓国語がより身近なものになったことは私にとって、収穫の1つです。今後も長く付き合うことのできる友達が現地でできたため、彼らの言語である韓国語をこれまで以上に知り、より多く使えるようになりたいです。

<sup>1</sup> 櫻井正明『韓国語会話 55 の鉄則表現』三修社、2011、29 頁